

8月が下旬を迎え、今年の夏が過ぎようとしています。

6月末に早々と梅雨明けした後の猛暑と豪雨が全国各地を襲った夏でしたが、例年通り花を咲かせた植物とこれまで見かけなかった花に出会えた。その名前・植生・由来を調べていったところ遠隔地から近隣の地に移植された花々が多いことに気づかされた。

格段毎に花の写真を整理したところ、アメリカ原産のフヨウ（芙蓉）、南方の琉球（沖縄）と北海道の花、通常は山地で育つ花（山野草）、そして、関東地方／近隣で育つ花に分類できた。

それぞれの花の解説は割愛し、いくつか特徴を付記する。

アメリカ芙蓉：和生の芙蓉に比べて花が3,4倍大きく開いているので目立つ。**紅葉葵**は花弁が細く割れていてサイズが大きい（スカシユリのように）。実はアメリカ原産。

琉球産の花は嬉しい：**琉球ユリ**は鉄砲百合の一種、**青い琉球朝顔**は終日咲き続け、10月末まで花を咲かせる。**エゾ（蝦夷）**という名の付く多くの花は北海道産だ。**ハマナス**も北海道を代表するバラ、梨の様な実を付けるのが命名の由来。英名が **Japanese rose（日本のバラ）**、実は日本を代表するバラ！

3段目は、元々は山野草であったが平地で育て定着した花々。濃い橙色の花が印象的な**フシグロセンノウ**を初めて見たのは那須高原であった。**ウバユリ**は今や芦花公園の名物、群生している。**カライトソウ**は、山野草の愛好家が庭に移植したものと思われる。**オカトラノオ**は水辺を好む花のようだ（平地に咲くカクトラノオとは異なる）。野生の**テイハノイバラ**も山野草。

最下段の3種は近隣で見られる平地の花。**ギボウシ**は葉が特徴で隠れた愛好家が多いが、花もユニークだ。**ベラドンナリリー**は、アマリリスの原種で南アフリカが原産地。ベラドンナはイタリア語で“美しい女性”の意、薬効（毒性）を有する。**ハマユウ**、正式には**アフリカハマユウ**（アフリカ原産）。